

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和んで 笑って つながって」を、合言葉に、家庭的な雰囲気での生活・一人一人の生活のリズムの確保・お互いに支えあう心の生活基盤・地域との交流を図り、地域に根ざしたホームの確立という理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々の業務の中でも確認できるように、職場の目に着くところにかかげ、毎朝、引継ぎの時に理念を読んで確認し、カンファレンス等でも話し合い実践できるよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	エレベーターや玄関など、地域の方やご家族が来られた際に目に付くようにかかげ、運営推進会議でお話し、ご理解頂けるように勤めているが、地域全体には、まだ浸透してっていない。	○	今後、利用者様が安心して地域で暮らしていけるよう、また、地域との交流を深めていく上でも、理念をもっとたくさんの方々に知って頂くように考え工夫していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くに商店街や学校があり、買い物や散歩に出ると声をかけて下さったり、外で日向ぼっこをしていると、立ち寄ってくれる。時々ギター好きの方が来てくださり、童謡などを聞かせて下さいます。しかし、近所の方が気軽に中へ入って下さるということは少ない。	○	今年は地域の夏祭りに、カブト虫を取って来て、子ども達とジャンケンゲームをして差し上げたり、フリーマーケットと駄菓子屋さんを企画し、実行した。今後も、地域と交流を持つ機会を作り、気軽に近所の方が立ち寄って頂けるような、グループホーム作りに取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや敬老会の催し、盆踊り等に参加させて頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や認知症の勉強会の開催やボランティア活動など考えているが、まだ実施にいたっていない。	○	介護教室や勉強会、ボランティアなどの実施に向けての話し合いを、職員みんなで行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず、運営者や管理者が評価の意義を理解し、カンファレンスにおいて話し合い、日常のサービスを振り返り全員で自己評価を実施し、課題が明らかになった。昨年の評価を受けて、改善課題について話し合い、運営推進会議においても報告を行なった。しかし、改善課題についての計画の作成は行っていない。	○	具体的な目標を掲げた改善計画を作成し、その実施状況を定期的に振り返り、質の向上を行なっていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者様の日常の様子を紹介しながらサービスの実際や取り組みを報告させて頂き、ご意見を頂いて、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、行き来することにより、行政に関する質問の回答や市や地域の催しなどの情報提供を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に活用されている利用者様もおり、勉強会、話し合いを持つことにより職員の理解・知識向上にも努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス・勉強会により資料を使った話し合いを持ち、学ぶ機会を持つよう努めている。職員は日々の利用者様への声掛けや態度にも注意し、気づいた時にはお互いで話し合える雰囲気がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する際は、利用者様やご家族の不安や疑問点を十分に尋ね、グループホームでできること・できないことやグループホーム利用におけるリスクの説明も行い、十分にご理解・納得を得た上で契約を行なっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員や管理者が日々の会話や様子などにより、意見や不満を聞き出せるよう努力し、利用者様も含めて話し合い、検討し速やかに対応できるように努力している。時には運営推進会議の場で話し合う機会を持っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、月次報告という形で、利用者様の様子や健康状態、業務報告等を文書で発行し、ご家族に報告し確認を頂いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来られた時はもちろん、運営推進会議で意見等を伺い、速やかに関係者で検討し対応できるように努力している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや日々の面談、申し送り記録により、意見・提案を聞くことにより、話し合い・検討し、反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>面談やカンファレンス等において、管理者・職員がお互い協力し合い、勤務の変更にも対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様のダメージを考え、職員の移動はないようにしているが、離職により新しい職員配置になった場合は、日勤帯から勤務を開始し、徐々に馴染みの関係ができたところで、夜勤の勤務を入れていくようにしている。初回の夜勤は、管理者または先輩の職員が付き添う。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい職員には新人研修として、認知症や理念・介護保険等の勉強会を施設内で実施し、その後、段階に応じて勉強会を1ヶ月に1回を目安に実施している。その他、実践者研修・管理者研修はもちろん、グループホーム連絡協議会に実施される勉強会への参加を促している。今後は、講師を招いての勉強会を計画中である。	○ 今後、講師を招いての勉強会を計画中であり、実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者や管理者は情報交換等交流を持っているが、勉強会など行なっていきたいとの意見は出ているが、具体的な話し合い・実施には至っていない。	○ まず、運営者や管理者が話し合いを持ち、実施に向けて取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人のストレス状態を確認するための定期的な面談を行い、対処している。 気分転換にみんなで外食に出かけるなどしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月の勤務状況の把握や、定期的に職員の評価を行なうなど努力や実績など把握するように努め、反映できるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にて、ご本人の困っていることや不安なこと、求めていること等を十分に聞く機会を作っている。状態においては、他のサービスの紹介も行なっている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にて、ご家族の困っていることや不安なこと、求めていること等を十分に聞く機会を作っている。状態においては、他のサービスの紹介も行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にて相談を受け、お話を聞くことにより、状況においては、他のサービスの紹介も行なっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、見学から始まり、居室など本人の馴染みの物を置くなど環境を整え、職員やご家族と相談しながら徐々にいっていただくように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活観、価値観、性分などを十分に知った上で、利用者というくくりで接するのではなく、一人ひとりの人間として接していくよう努めている。すべての職員がもっと、一緒に和める時間を持ち、馴れ合いになるのではなく尊厳を持ちながら、利用者様から学んだり、支えあう関係を作って行きたいと思っている。	○	すべての職員が、利用者というくくりで接することなく、一人ひとりの人間として接していけるように話し合っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安に対してはその心情を考えながら、その不安を出来るだけ解消してもらえるように丁寧に、出来ないことに理解を得ながら説明する姿勢を持って答えるよう努めている。また、常に家族が不安を打ち明けやすい環境や雰囲気を整えるよう努めている。	○	職員と家族がもっと気軽にお話ができる環境や雰囲気作っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いや様子を面会時また電話にて伝え、話し合うことによりより良い関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さったり、年賀状やお手紙を書いたりして馴染みの方達との関係が途切れることのないように、配慮し支援している。 行き付けの店や神社などへ、外出時、立ち寄りしたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの立場を考え、ゆっくりとお話を聞かせて頂きそれぞれの気持ちを聞きだすよう努めている。その上で、職員が中に入り、一緒に家事や調理など一緒におこない、利用者同士の関わり合いが築けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設以来、利用者の変更はなく、皆さんサービスの利用が継続している。今後、サービス利用が終了しても、何らかの形で関係を継続して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にセンター方式を活用し、職員一人ひとりが利用者様の思いや暮らし方の希望などを把握できるよう努めている。困難な場合は、カンファレンス等で本人本位にできるだけ実現できるよう検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話にて情報を得たり、ご家族などからお話を聞いたり、時にはセンター方式の生活暦のシートを書いて頂いたりして把握に努めている。そして、情報を職員で共有することにより、サービスに活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、業務日誌や個々の介護記録・支援経過へ記録し、口頭でも申し送ることにより、職員全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の活用により本人が希望される暮らしやできること・できないこと、わかること・わからないことなどを把握し、課題やケアのあり方についてカンファレンス等で検討し、本人・ご家族等とも話し合い、意見・アイデアを反映した計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月に介護計画の見直しを行っている。 変化が生じた時は、見直し以前であっても、本人、家族、職員等と話し合い、アセスメントを行い、新たに計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録において、毎日の気づきや経過とそれに対応の記録を行い、職員が情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運動が必要な利用者様には施設内のPTに指導を受けたり、事務所の男性職員の協力を得て、釣り好きの利用者様と一緒に釣りに出かけたり、できる支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議では民生委員等地域の方から意見を頂いている。行事の際はボランティアをお願いしたりしている。警察の方には、非常時の協力をお願いしている。非難訓練や救急時の指導を消防をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	医療処置が必要な場合が生じたら、訪問看護を利用させて頂く。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、相談を行なって協力をお願いしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別のかかりつけ医と相談させて頂きながら、定期的な通院・往診による受診を支援させて頂いています。そして、それぞれのかかりつけ医との連携を結びながら、緊急の医療にも対応をお願いし、重症な場合は、大きな病院への紹介をして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	対応の難しい行動障害などで、困った時などケア等の対応について電話や来院により相談にのっていただき、治療を受けている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者様にいつもと違う様子見られた時は、すぐに事業所内の看護師に相談している。日々のバイタルチェックもお願いしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中でも、病院との連絡を取り連携に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ADLが落ちてきている方も増えてきており、高齢化していることから、話し合いは行なっているが、全員に具体的な方針の共有まで至っていない。	○	具体的な話し合いの機会を持ち、方針を共有するよう努めていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	話し合いはしているが、具体的な方針が共有できていない。	○	上と同様話し合いの機会を持ち、方針を共有し、チームの支援に取り組んでいきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設時より、事例はない。	○	今後、住み替えの事例が起きた場合、本人のダメージを考え関係者で十分な話し合いや情報交換を行なっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者と共にあり、同じ時間、空間を過ごしているということを意識し、尊厳の気持ちを持ち、無神経な発言、対応をしないよう心がけている。記録等の個人情報も取り扱いに注意し、紛失することないように保管している。	○ 感情等で利用者様の一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれるような発言、対応をのないように徹底し、個人情報の取り扱いも徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃のコミュニケーションをとりながら、本人が思っていることや希望を表せるような雰囲気づくりに努め、自己を尊重し、お話をして納得しながら暮らせるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人一人ひとりのペースを大切に、利用者本位のサービスを心がけているが、業務をまだまだ優先してしまっていることがある。	○ 業務の優先させることなく利用者様のペースに合わせ、その日どのように過ごしたいか、配慮しながら声掛けし希望に副うよう努めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日常のコミュニケーションをとることにより、その人の好きな色や身だしなみなどをアセスメントし、支援している。理容・美容は本人が望むときに望む店に行けるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者様と一緒に考え、好みに添えるよう努めている。それぞれ出来ることや意欲などを配慮しながら職員と一緒に準備をしている。時々、気分転換に外食に出かけたり、秋刀魚のバーベキューをしたりお弁当を持って出かけたりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的な面で飲酒できない方もおり、共同生活という点でお酒・タバコの支援は出来ていないが、甘いものなど好きな方には状況に合わせて支援している。	○ 飲酒を希望されている方もおられ、出来るだけ支援できるように検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンを知り、様子を観察しながら、定期的に声掛け・誘導を行い、出来るだけオムツの使用を減らしていくよう支援している。声掛けや介助は、常に尊厳の気持ちを持って行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調を考慮しながら、出来るだけ希望時に入浴していただくよう支援している。入浴拒否される方は無理強いせず、時間をおいて声掛け・誘導するようにしている。バイタルに不安のある方は、看護師がバイタルチェックを行った上で支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ安心し、睡眠が取れるよう支援しているが、夜間眠れなかった場合は、日中ゆっくりと過ごしていただくよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や出来ることをアセスメントし、話を聴きながら、職員で利用者様一人ひとりの張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう話し合いながら、支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブルを考え、本人、ご家族にお話し、居室での各自の所持は遠慮願っている。お買い物が趣味の方もおられ、希望時には、その都度預かり金をお渡しし支払いまでご自分でされている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりが、「今どうしたいのか。」「どこへ行きたいのか。」「お話を聴くことにより、希望に添えるよう支援している。「釣りに行きたい。」とおっしゃれば、職員が付き添えるよう段取りを組み、ご家族に連絡後、出かけるなどしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの希望を聞き、職員や家族で話し合い、計画を立て、出来る限り希望に添えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が、ご家族等と連絡を取りたいとおっしゃれば、即座に電話できるよう支援している。お手紙を頂いたときは、ハガキ等を用意し、お返事を書く支援を行っている。毎年、一人ひとりが出したい方に年賀状を書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・ご友人等気軽に訪問して下さいます。訪問時には、ゆっくりとお部屋で、お茶を飲みながら過ごしていただくよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームも高齢化し全体にADLが落ちてきており、転倒のリスクも高くなっている。それに対し「座って下さい。」というような声掛けをしている職員も時により、定期的に勉強会を開き、身体拘束について学ぶ機会を作っている。	○	言葉の拘束というものも考えながら、今後も定期的に勉強会を行い、研修などへの参加も進めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることにより起こりうる、事故や認知症ケアにおける弊害などデメリットを考えながら話し合い、理解した上で全員が鍵のかけないケアを実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のことを常に気にしながら、直接的な関与はしなくても、その方の心の動き、様子、生活を見守っていくように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	なじみの暮らしを継続していただきたいという考えから、愛用していたものやなじみのものなど持ち込んでいただき、裁縫箱や刃物など、一人ひとりの状態に応じて一定の場所に保管し、希望時・必要時に一緒に使用して頂いています。預からせていただく時は本人とお話させて頂き、納得して頂いた上で預からせて頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居間の物の配置や段差の解消など転倒の危険がないか常時注意している。薬、洗剤などは鍵つきの場所に保管している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1年に一回、消防署に協力をお願いし、救急処置の訓練を行っており、マニュアルもあるが、実際、利用者が急変した時に落ち着いて対応できるか、不安を感じている職員もいる。	○	1年に1回の訓練に加えて、施設内でも定期的に、応急方法などの勉強会を行い、確認を行っていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に一回、消防署に協力をお願いし、災害時の避難訓練を行っている。地域の人々には運営推進会議において、随時お願いしている。	○	今後も随時、お願いしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	希望に添った、抑圧のない暮らしを支援するために、起こりうるリスクをカンファレンス等で検討し、ご家族に説明した上で対策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の体調の変化や異変見られた時は、速やかに責任者に連絡し、主治医や看護師と相談し、支持を仰いで対応している。必ず、支援経過に記録し引継ぎを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員には、一人ひとりが使用しているお薬の目的、副作用、用法、用量については、説明を行い理解しており、常時確認できるよう、文書にまとめて見やすい場所に置いてある。服薬ミス防止のため、それぞれ、1回分ずつ小袋に入れ、名前、用法を確認しながら介助を行っている。毎回服薬チェックシートにチェックし、症状の変化等は支援経過に記録して、引き継いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、便の状態や量も記録している。まめに水分摂取を行ってもらったり、繊維質や便をやわらかくするような食材などにも配慮したり、御飯には寒天を入れて炊くなど工夫している。散歩や座って出来る体操なども時々行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、状態や力に応じて、一緒に行ったり、介助したりして支援している。声掛けを行った場合は、さりげなく確認も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に献立は利用者と一緒に考え、共に栄養のバランス・食べやすい大きさを考慮しながら、調理している。そして、それぞれの食べる量の配慮はもちろん、咀嚼力や飲み込み力に応じて魚をほぐしたり刻んだりと手を加えている。食事量も水分量も毎日チェック、記録を行っており、少ない時は好きな飲み物など手渡しし、摂取してもらっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会にて感染症に関する知識を得て、予防策も学び、随時目に付くところにマニュアルを置いている。利用者と職員で食事前とトイレの後の手洗いと外出から戻ったときの手洗いとうがいを行っている。毎日、殺菌剤を入れて拭き掃除を行い、日頃、手すり等の汚れを拭くための、殺菌剤に浸した、布を常備している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器などは使用後にハイターへ浸すなどして殺菌消毒を心がけている。食材については、常時、賞味・消費期限を確認し、期限切れのものは処分し、魚や野菜などは、近くのお店で新鮮なものを毎日いれてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周辺に花を植えたり、くつろげるベンチを置いたりしている。入り口には、当ホームの名前を意識し、ひまわりのアートフラワーやトルペイントをほどこしたタペストリーを飾っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の不穏の原因となる、不快な光や音といったものには、注意し、ブラインドなど付け配慮している。居間には新聞やテレビ等置いたり、季節のタペストリーや花を飾ったりして、生活感や季節感を感じていただけるよう工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者や職員で意見を出し合いながら、ローカなどの空間を利用し、お茶や読書が出来るようなテーブルや椅子を置いてみるなど工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人にとって落ち着く場所を作って生活してもらうために何が必要なのか考え、本人やご家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもの、好みの色を考慮しながら、本人が心地よく過ごせる工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除を行う時はもちろん、定期的に窓を明け換気をおこなっており、利用者の様子を見ながら、まめに温度調節を行っている。居間には温度計を常備している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を把握した上で、それぞれの機能に合わせた椅子を用意したりベッドの位置や高さ・ポータブルの位置など工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式のわかること・わからないことシートを使用し、職員がまず個々にアセスメントし情報を交換し、カンファレンス等で話し合い、アイデアを出し合って、自立して暮らせるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者が楽しめるように、菜園を設けお花や野菜を植えて、収穫を楽しんでいる。そして、ベンチと縁側を設け、日向ぼっこなどして、くつろぐ空間も作っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームとして、取り組んでいかななくてはならない点がたくさんあると思いますが、私達は、小さな家庭的な環境の中での生活で、高齢者に対して、「何を大切にしなければならないのか」という、最も大切な「想い」を、職員がいつまでも忘れないようにかかわらせて頂くよう努めています。家庭的な環境を希望され、入居して来られた利用者様に「心」がないままに、高齢者を受け入れていけば、入居されている方は残念な最後を過すことになるからです。ですから、常日頃から、一人ひとりの思いを感じながら、その意思を尊重していく姿勢に重要性をおき、普段着の生活、普通に暮らすということ、くつろいで過せる居場所の大切さを支援させて頂いています。実際、いろんな行動障害が出ている方もいらっしゃいますが、どんな時でも、職員は利用者寄り添うことができていると思います。少しでも普通の生活ができればと、専門医とも連携を取らせて頂きながら、医療とケアで連携して支援させて頂いています。その中で、利用者様の好きなこと、希望されることを支援させて頂いています。釣りへ行きたいということであれば、車椅子の方でも、実現できるように皆で話し合い、しっかりと計画を立て、職員が協力し合って実現できるよう支援します。「無理」ではなく「出来る」ということを前提に、職員、家族等で話し合います。それに関しての情報を地域の方からも頂くこともあります。今後も、「想い」というものを大切に、みなさんの生活を支援させて頂く様、努めたいと思います。